

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4073600423		
法人名	医療法人 聖恵会		
事業所名	グループホーム安居		
所在地	福岡県古賀市鹿部485-1		
自己評価作成日	平成26年5月7日	評価結果確定日	平成26年7月11日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://www.kai.gokensaku.jp/40/index.php?action=kouhyou_detail_2013_022_kan=true&ji_gyosyoCd=4073600423-00&PrefCd=40&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社アール・ツーエス		
所在地	福岡県福岡市博多区元町1-6-16	TEL:092-589-5680	HP: http://www.r2s.co.jp
訪問調査日	平成26年5月29日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホーム安居では「第二の我が家」を基本方針に掲げ、安心した生活が送っていただけるよう、スタッフ一同関わりを多く持ち、支援しています。また、H17年2月に開設して10年目に入りました。入居者様の重度化に伴い、安居での看取りを希望される方が増えておりますが、病院が敷地内に併設し、24時間体制の協力が得られることで、ご家族様の安心に繋がっているようです。当グループホームでは、ご家族様とその方の思いを大切に、個別のケアに努めております。

認知症専門の母体病院と有料老人ホーム等がある広い敷地の一角にショートステイと併設して「グループホーム安居」がある。古民家風の木造りの住居は癒やしを感じさ、「安居」の由来には仏教用語で安心して穏やかに生活できる場所という意味が込められている。敷地内には四季の花が咲き乱れ、周囲は緑の雑木林に囲まれており自然の中で、ゆったりとした時間が流れていた。菜園には薩摩芋が植栽されていて、毎年、保育園児達と一緒に芋ほりが楽しまれている。年に2回は地域公民館の福祉サロンに招待されて皆で食事を楽しんだり、事業所の納涼祭には地域の方たちが沢山参加されて職員手作りのオードブルを一緒に食べて貰うなど、地域との繋がりが密接である。母体が認知症専門であることから常に医療の提供が受けられ家族も安心している。外部・内部研修等の取り組みも積極的に行われており、法人全体としての学習会も定例化されており職員のスキルアップにも前向きに取り組まれている。改善への姿勢も積極的で、今後の発展に多いに期待が高まって来る居心地の良い事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	☐	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	☐	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	☐	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	☐	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	☐	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	☐	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
61	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	☐	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	☐	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	☐	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	☐	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	☐	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	☐	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:30)	☐	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎日申し送り時に理念の唱和を行い共有している。また、全体カンファの勉強会にて意義を理解し、日々の実践に努めている。	開設時に管理者達で話し合って作られた理念があり、地域密着型に変わった時に地域との関わりも取り入れた。毎朝の唱和はリーダーを持ち回りで言い全員での共有を図り、年1回の勉強会でも方向性を再確認している。理念を元にした目標と達成評価もされ、日々の実践にもつなげていた。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地区の老人会などに参加、また事業所の催事に地域の方を招待し、顔なじみになるなど地域の一員として交流を図っている。	敷地内の菜園を開放して地域の保育園に芋掘りに来てもらったり、納涼祭には地域ボランティアも来てもらって100人以上の来客を招いて盛況である。公民館活動も積極的に、食事会に招かれたり、講師を派遣して認知症の出前講座も定期的に開催している。母体病院と地域の関わりも密接で相互交流がなされていた。	一歩踏み込んだ関わりとして、地域の清掃活動や、子どもたちの挨拶活動を行ったり、入居者と共にゲートボールなどの活動に参加が検討されることが今後は期待される。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	老人会参加時、認知症について説明をしたり、介護予防教室の開催を行い、また施設の見学を勧めたりしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	現状報告を行い、その場の内容やご意見はスタッフへ伝え話し合いを行うことでサービスの向上に努めている	2ヶ月毎に開催され、区長、市職員、民生委員などのほか、家族も交替で参加し、入居者が出席することもあった。出席者の意見も多く、以前、区長の呼びかけから公民館活動が始まり、市との勉強会などの協力にもつながった。行事と同時開催したり、会議後食事を一緒にとることもあり、会議が運営に活かされていた。	参加者からの意見も多く、活発な会議運用がなされているが、参加者の幅を広げたり、他事業所との相互参加なども検討されてはどうか。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に担当職員の参加があり、事業所の取り組み状況や実情を伝えながら協力関係を築いている。	納涼祭にも市職員を招待し、市の依頼から介護予防講座やキャラバンメイト活動なども行っている。パンフレットを持参して挨拶や報告もまめに行い、入居相談をいただくこともある。共同して数年前に地域ネットワークも立ち上げ、見学会なども開放しており、行政との関わりは深い。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全体カンファの中で学び、理解を深め身体拘束のないケアに取り組んでいる。玄関は3号線に面しており、安全配慮のため、ご家族様了解のもと施錠している。	玄関は職員管理による施錠をしているが、リビングの掃出窓や中庭への出入りは自由に行える。転倒の危険のある場合などにセンサーマットを利用することはあるが、全体の方針で一切の拘束を行わず、増員してでも見守りや付き添いで介助を行っている。内部研修や外部研修でも拘束行為の理解を進め、言葉かけなども日頃から注意している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修会や全体カンファの中で学び、意識を高め常に注意をしてケアに取り組んでいる。		

H26自己・外部評価表(GH安居)

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	全体カンファの中で学ぶ機会を持ち、必要性や活用の仕方を支援できるような取り組みを行っている。	成年後見制度の利用が1名おり、後見人とのやりとりを介して支援を行う。内部研修は職員間で担当を持ち回って資料準備などを行い、一般的な理解はできている。必要時は母体病院の地域連携室とも連携をとりながら対応し、説明用の資料やパンフレットも準備されていた。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	見学や契約時に理解・納得されるまで十分な説明をしている。改定時には、行事に合わせて家族会を開き、説明をしている。参加されない方には個別に説明をしている。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議にて意見を頂いたり、面会時には意見や要望を伺い反映させている。また、アンケートやご意見箱を設置している。	母体法人からアンケート調査を毎年実施している。毎月「安居だより」が発行され利用者ごとの写真、担当者からのコメント、スタッフ紹介もされている。意見は直接聞くことが多く、各所に意見箱も設置され、要望から掃除方法の改善などにもつながった。運営推進会議で意見を話し合い、家族会も組織されている。	意見を聞く機会を設け、運営改善にもつながっているが、改善報告として「安居だより」にアンケート結果や取り組み内容を載せて、情報発信していったらどうか。
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全体カンファレンスにて意見交換や検討の場を設け、常に反映させている。	毎月全体カンファレンスの後、ユニット毎の話し合いがあり、その月の課題を交替で発表し、法人全体でも年2回テーマを決めて学習し発表機会も持ち、外部研修にも勤務として参加している。個別面談は必要に応じて行われており、。管理者には何でも気軽に相談できる。年1回は意見を文書にして提出し、外出レク等の要望が実現している。	具体的な取組の評価や、さらなるモチベーション向上のために職員の目標達成度を数値化して評価に活かされることなどが期待される。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格の取得に向けて勤務調整を行い、向上心を持って働けるよう職場環境の整備を行っている。		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	幅広い年齢層の採用で、個人の能力を活かしたケアに取り組み、生き生きと勤務できるよう配慮している。	20代～70代迄の男女が雇用されており、各自の能力を活かしてケアに当たっており、中庭の野菜作りや写真撮影を担当する人や、男性は力仕事等を率先して行うなど役割分担がなされている。資格取得にもアドバイスがあり、積極的に支援され、学校の行事など個別の要望もシフトによって保障されている。職員間のコミュニケーションも良く、働き易い事業所である。	
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	研修会に参加したり、全体カンファで勉強会を行い、人権について理解を深められるよう取り組んでいる。	母体法人での全体研修で毎年人権学習を行い、地域ネットワークにおいても高齢者の人権に関しての外部研修が開かれている。カンファレンスによる勉強会も行っており、理念に沿って個人の尊厳を振り返る機会を設けている。	

H26自己・外部評価表(GH安居)

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	個別のケアに対して、随時意見・指導を行っている。法人内や外部の研修に参加できる支援体制がある。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域のネットワークでの勉強会に参加し、交流を図っている。また、グループホーム協議会の研修に参加し、サービスの質の向上に取り組んでいる。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	見学に来ていただき、相談に応じて、不安を取り除くことができるよう努めている。また安心してサービルが受けられるよう人間関係を築いている。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様と面会時や電話にて相談に応じながら安心していただけるよう、ご家族との関わりを多く持ち、関係づくりに努めている。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	状況を把握し、その時必要なサービスが提供できるよう努めている。支援の方法は一つではないことを職員共通で認識している。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家族の一員として接し、調理など個々に来る事を把握し、受身の介護ではなく、共に過ごし、支え合える関係を築いている。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	常に本人と家族をつなぐ立場であることを意識し、連絡を取りながら共に支えていけるよう努めている。		
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人やご家族の意向に沿いながら、自由に外出、外泊が出来る環境を整え、馴染みの場所へ行けるよう努めている。	公民館から懐かしの鹿部山の眺望を楽しんだり、昔から好物のラーメンを食べに行ったりと個別ケアによる支援を行っている。家族も協力的で面会の機会も多く、馴染みの美容室に連れて行ってもらったり、温泉旅行に行った方もいた。公民館活動でも知人にあって話が弾む事もあり、趣味の知り合いが面会にきたりと。事業所の支援のもと継続した関係が保たれている。	

H26自己・外部評価表(GH安居)

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者一人ひとりを把握し、座席などに配慮して上手く係わりが持てるよう、さりげなく話題や活動を提供し、楽しく過ごしていただけるよう支援している。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	母体病院入院の場合は面会等を通じ継続的な関係が築けるよう努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりを通して、ご本人の意向の把握に努め、個別の対応を行っている。困難な場合は ご家族の意向を取り入れ援助している。	センター方式を活用したアセスメントを行い、家族に協力してもらって情報を記入、追加してもらっている。担当職員が主にに関わり、計画作成担当と一緒に作成しており、ケアチェック表を使って3ヶ月の見なおしを行い、意思疎通の難しい方には家族から聞いたり、表情や仕草から読み取りにつなげている。アセスメントによって残存機能を掘り起こし、プラン作成に活かしていた。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人やご家族より生活歴などを聞き、センター方式を使用し把握を行い、馴染みの環境を提供できるよう努めている。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の状態や行動を観察し、日誌や介護記録などを通して情報を共有し、現状の把握に努めている。		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	モニタリング時に状況を報告、話し合いを行い、ご本人やご家族の希望を取り入れ、意見を生かした介護計画書を作成している。	職員は担当制で、3ヶ月毎のプラン見直し、ケアチェック、モニタリングを行っている。新任でも指導のもと、担当を持ってもらい、現場目線でのプランに活かしている。担当者会議も3ヶ月毎に行い、家族にも参加してもらい、必要時は他職種とも連携してチームケアに取り組んでいる。日々のプラン実施もモニタリングし、プラン共有が図られていた。行動療法として新たに「ユマニチュード」への取組を始める予定である。	
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録やモニタリングチェック表を使用し、毎月の評価を行っている。評価の結果を共有し介護計画の見直しに活かしている。		

H26自己・外部評価表(GH安居)

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	状況変化があれば、ご家族と相談する機会を設け、柔軟な支援サービスに取り組んでいる。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	保育園児の訪問や中学生の体験学習の受け入れなど行い、楽しく生活が送れるよう支援している。		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医や専門医への受診は、ご家族の協力を得ながら行っている。必要時は職員が同行し援助している。	かかりつけ医は母体病院を希望する方が多いが、外部病院を利用することも可能である。定期受診は2週に1回だが、敷地内のためいつでも相談可能で、看護師も常駐して健康管理されている。他科受診は基本的には家族に介助してもらいが、必要であれば同行や、事業所支援による通院も行っている。家族ともその都度やりとりして、医療情報も共有している。	
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々状態の観察を行い、看護師と密に連絡を取り合っている。異常があればすぐに医療機関を受診できるよう支援している。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院関係者と連絡を密に取り、情報交換を行っている。必要に応じて母体病院との連携を図っている。		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	早い段階で、ご家族と話し合い、希望を取り入れ、今後の対応をDrより説明を頂きながら方針を共有している。	今までに看取りを行った方もおり、早い段階で家族や医師とも話し合い、希望を聞き取り支援している。夜間や緊急体制も整え、ターミナル期には往診対応も行っている。方針は入居時と、重度化の際に説明し、家族、医師、看護師同席で同意を得ている。研修も毎年開催し、母体病院とも協力して対応にあたり、看取りプランも作成して終末期支援を行っていた。	
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	母体病院での研修に参加したり、全体カンファレンスにて学んでいる。また、スタッフはマニュアルに沿って行い、実践力の習得に努めている。		

H26自己・外部評価表(GH安居)

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	母体病院との連携を図り、防災訓練を行っている。また、全体カンファレンスにて勉強会を行い避難方法を把握している。	年2回、母体病院と合同で防災訓練を実施する他、事業所独自の火災訓練も年2回行い、消防署の参加で災害時の指導を受けている。近隣の災害情報を提供して貰うなど常に連携を取り合っており、キャラバンメイトで消防署に出向き講演する事もある。母体病院が大規模災害時の避難場所に指定されており、備蓄も完備されていた。	今後は地域や家族への参加を促す為に案内をされたり、地域との防災協力体制の強化の一環として、地域の防災訓練にも参加されるなどの取り組みに期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	(17)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	接遇の研修会に参加し、情報を共有。意識の向上を図り、プライバシーに配慮した言動に努めている。	法人で年1回研修を実施するほか、接遇委員会が設置されており毎月1回、参加した委員から報告を受けている。言葉遣いは自分の親に接する思いで慈しみを大切にしよう指導している。排泄等の個人情報の保持の為に呼名はせず室名で申し送りを行うなど配慮しており、写真の掲載は入居時に了解を貰っている。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常の関わりを通して、ご本人の思いや訴えに寄り添いながら、適切な言葉かけを行い、自己決定できるよう支援している。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	これまでの生活暦を把握し、食事の時間や就寝時間など、個人のペースを大切に、無理なく過ごしていただけるよう支援している。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご自分で服を選んで着たり、お化粧をしたりされている。また、白髪染めに美容室に出かけたり、おしゃれを楽しんでいただいている。		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	お米研ぎやつぎ分け、野菜の皮むきなど、一緒に行っている。また、好みに合った物を提供し、食事が楽しみとなるよう援助している。	管理栄養士が作成したメニューを元に2人の調理員が調理している。食器洗いや野菜の下準備、誕生会のケーキ作りなどは利用者に手伝って貰っている。年3回は外食レクを企画し、嗜好に合わせて少人数での個別ケアを実施する等、食の楽しみを大切にしている。納涼会でのオーブンや焼きそば等も好評である。	
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	母体病院の管理栄養士の献立で、バランスの取れた食事の提供を行っている。また、チェック表を用いて摂取量の把握に努めている。		

H26自己・外部評価表(GH安居)

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを行い、磨き直しやガーゼ清拭など、個人に合ったケアを行い、清潔保持に努めている。		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表にて排泄パターンを把握。声かけ誘導を行い、失敗のないよう配慮している。またオムツ使用量を減らす工夫を行い、自立に向けた支援に努めている。	2時間毎に声かけをしてトイレ誘導している。排泄表を参考に各自のタイミングに合わせ、早目に誘導する事によってパットやオムツの使用量が減ってきている。夜間は失禁者はトイレ誘導するが、立位困難な方は安全の面から夜間のみオムツを使用している。6月からは母体法人の排泄改善委員会の活動として、尿量を計量する事になっており、更に自立が進むと考えている。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便チェックを行い、排便の有無を確認している。排便困難ある方には、毎日牛乳を提供したり、運動を促したり、予防に取り組んでいる。		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	希望に沿ったタイミングで入浴を行い、個人の希望に合った入浴方法を施行している。また、男性スタッフを嫌がられる方には女性スタッフが対応するなど、個々に沿った支援をしている。	10時半～15時の間でそれぞれの体調や希望に合わせて隔日に入浴して貰っている。毎日の入浴や夜間浴もできるが、希望者がないので今は昼間浴のみである。檜風呂なので香りも良く利用者に喜ばれている。拒否される方については、職員が交替したり、時間を変えたりしながら無理強いをしないようにしている。	柚子湯や菖蒲湯など季節湯を取り入れて、可能な範囲で、更に入浴を楽しんで貰ってはどうか。
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の身体状況に合わせて、朝、昼食後居室にて休んでいただいている。また、状況に応じて休息していただける環境を提供している。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の薬について把握し、変更時や追加時には確実な申し送りを行い、事故防止に努めている。服薬時には、二人で確認し、安全な服薬支援を行っている。		
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物干しやつぎ分けなど、個人に合った役割を持ち、楽しく生活が送れるよう支援している。また、御家族様持参の嗜好品の提供や好きなDVD鑑賞など、楽しく気分転換が図れるよう支援している。		

H26自己・外部評価表(GH安居)

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	中庭を散歩し、花や野菜を眺めたり、ご家族様と一緒に買い物や食事に出掛けたり、本人の希望に添えるような支援をしている。また、個別で食事に出掛けるなどの支援を行っている。	気候が良い時は敷地内の遊歩道を散策しながら自家農園を眺めて貰っており、園庭も季節の花や野菜を栽培しているので、自由に散策されている。初詣でや花見など年間計画に添って楽しんで貰っている。日帰りの温泉旅行や個別対応でスーパーに出かける等、できるだけ外出の機会を確保するように努力している。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	預かり金の中からご本人の必要物品を購入できるよう配慮している。また、外出の際には、ご自分で支払いが行えるよう支援している。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望時には、いつでも電話が使えるよう支援している。また、遠方の方からのお手紙やはがきなど受け取りを行い、電話でお礼を伝えている。		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有の空間では、テレビの音量、日差し、室温などに配慮し、不快や混乱のないよう努めている。又、廊下やテーブルには季節の花を飾ったり、季節感を採り入れ、居心地のよい空間づくりに努めている。	木造りの古民家風の佇まいに心が和まされる。廊下の天井が高く、明かり採りの天窓から陽射しが差し込んでいた。リビングは南向きで園庭や近くの雑木林等の緑が見渡せて自然環境に恵まれた共用空間である。冬場は床暖房で暖かく過ごせるよう配慮されるなど居心地の良さが感じられた。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファで横になられたり、お一人で本を読んだりされている。また、廊下の椅子で談話されたり思い思いに過ごせるよう工夫している。		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた、椅子やタンスがあり、写真やカレンダー、テレビなど居心地良く過ごせるよう、ご家族と相談しながら工夫している。	各部屋ごとに趣を異にした木造りの引き戸がしつらえてあり、室内の窓にも障子が設置されるなど昔懐かしい佇まいが醸し出されていた。いずれの部屋も窓外から緑が望め季節の移り変わりを感じさせる。表札は俳句の短冊入れで作られ、災害時は名札を外して避難の有無が確認できるように工夫されていた。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室・トイレ・風呂場など表示を分かりやすく工夫している。また、床など濡れていないかなど環境整備に努め、安全に自立した生活が送れるよう努めている。		